

日 時 〇月〇日(〇) 〇校時

場 所 高等部 〇〇教室

指導者 T1 〇〇〇〇 T2 〇〇〇〇

T3 〇〇〇〇

1 題材名 卒業後の生活～余暇Part2「大人の休日充実くらぶ」～

2 題材の目標 〔知〕：知識及び技能 〔思〕：思考力・判断力・表現力等 〔学〕：学びに向かう力・人間性等

- (1) 卒業後の豊かな生活の実現に向け、どのような余暇の選択肢があるのかを考えたり、地域で利用できる施設やサービスについて知ったりする。〔知〕
- (2) 自分の興味や得意なこと、活用できる地域資源などから、自分に合った余暇の過ごし方について考えたり選択したりする。〔思〕
- (3) 実践や友達との意見交換を通して、卒業後も社会とつながっていることを感じたり、自分の生活にどう生かすかを考えたりする。〔学〕

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
自分の余暇に利用できる地域の施設やサービスについて知ることができたか。	自分に合った余暇の過ごし方を考えたり、実現する方法をまとめたりできたか。	社会とのつながりを感じ、現在や卒業後の生活に生かす方法を考えることができたか。

4 生徒と題材

(1) 生徒について

本学級は男子1名、女子3名、計4名からなる知的代替の各教科等を学習するグループである。全員が通学生で車椅子や座位保持装置を使用している。日常生活全般において介助が必要な生徒が3名、部分的な介助が必要な生徒が1名いる。質問に発声や選択肢からタッチで選んで気持ちを伝える生徒が1名いるが、3名は簡単な言葉でやり取りができる。全員が人との関わりを好み、教師の仲立ちを介して生徒同士で話し合い活動に参加している。日常的にタブレット端末を使った学習を行い、オンラインによる双方向通信を楽しむことができる。卒業後の生活については、生活経験の少なさから具体的にイメージすることは難しいが、校外学習や現場実習等の実体験を重ね、卒業後は福祉事業所へ通所することや生活リズムが変わることについて、大まかな見通しがもてるようになってきている。

(2) 題材について

生徒は「卒業後の生活～余暇 Part1」で、卒業後に自由時間が増えることや、その過ごし方が心身の健康につながることを学んだ。Part2 となる本題材では、卒業後の豊かな生活を目指し、余暇の選択肢を広げることを目的としている。具体的には、先輩から青年学級や地域資源の活用についての話を聞いたり、調べたりした内容を冊子にまとめる。また、ICTを使った余暇活動も取り上げる。学習を通して、自分の「やりたいこと」を見つけて伝える力や、情報を集めて余暇を充実させようとする意欲を高められるのではないかと考え、ICTを活用することで、自宅にいても様々な活動に参加できることを知り、学校や地域とのつながりを継続できるのではないかと考え、本題材を設定した。

(3) 指導について

- ・知識の定着を図るために、毎時間導入で振り返りの時間を設け、学習の流れや意図について確認する。
- ・自分で考え、言葉や表情などで気持ちや意見を伝えられるように、気付きのヒントとなる掲示物や生徒の実態に応じた選択肢を用意する。
- ・文字を書けない生徒に関しては、タブレット端末で入力できるようにしたり教師が代筆したりする。
- ・余暇の選択肢について、体験できる内容は生活単元学習で行うなど他学習とも関連させて実施する。
- ・生徒が考えたりまとめたりした余暇について実現できるように、家庭と情報を共有する。

5 指導計画（総時数9 本時7／9時間）

小題材（題材）名・学習内容	主	対	深	時 数	小題材（小題材）の目標
1 余暇Part 1 を振り返ろう ・卒業後の生活と余暇 ・心の元気と体の元気	○	○	○	1	・卒業後の生活についてのイメージをもつ。 知思 ・Part 1 を振り返り、日常に生かしていることを確認する。 思学
2 先輩からのメッセージ ・先輩の卒業後の余暇 ・青年学級（同窓会）について	○	○		1	・青年学級の活動と先輩の余暇について知る 知 ・余暇の充実の必要性を知る。 思
3 大人になったらしたいこと ・余暇の選択肢を増やす ・「大人の休日充実くらぶ」（冊子）の制作	○	○	○	6 本時 (5／6)	・余暇の選択肢を知る 知 ・福祉サービスについて知る 知 ・情報を得る方法を知る 知 ・自分に合った余暇を選択する 思 ・余暇の実現方法を考える 学
4 後輩に伝えよう ・まとめた冊子を廊下に掲示する ・掲示したことを後輩に伝える	○	○	○	1	・伝えたいポイントをまとめることで学びを振り返る 学 ・相手に伝えることを意識して話す 学

6 本時の計画（総時数9時中の7時）

（1）本時の目標

- ・地域の施設についてどんな利用ができるかをシートにまとめ、友達に伝える。思
- ・自分でまとめたり友達の発表を聞いたりして、卒業後の利用について考える。学

（2）個別の実態・目標・手立て

生徒名	本題材における実態	本時の目標	手立て MSゴシック：自立活動シートより
A 男	・生活経験が少なく、自己選択や自己決定が苦手。 ・自由な時間に何をすればいいか分からないと不安を伝えることもある。 ・活動に見通しをもって、一人で取り組む。	・実際の利用を想定し、項目や内容を自分で選択してシートをまとめる。 ・友達の発表を聞き、自分の生活にどう生かせるかを考えて感想を話す。 高職業1段階イ(イ)㊥	・基本は見守り、悩んだ際に相談できるよう近くにいる。 ・具体的に考えたり感想を話したりできるように、生徒が話したことに対して「例えば」「どんな風に」など発問を重ね、言葉を引き出す。
B 女	・人と関わるのが好き。校外学習などで体験したことをよく覚えている。 ・ヒントがあれば体験したことを思い出し、様子や気持ちを言葉で伝える。	・自分がやりたいことを自分の言葉で伝えながら教師と一緒にシートをまとめる。 ・友達の発表を聞き「やりたい」「難しい」など自分で考えて伝える。 高職業1段階イ(イ)㊥	・まとめる際のヒントになるように、生徒の言葉を教師が付箋に記入し提示する。 ・生徒が感想を話せるように、例を挙げて発問したり、友達の感想を先に聞いてから指名したりする。

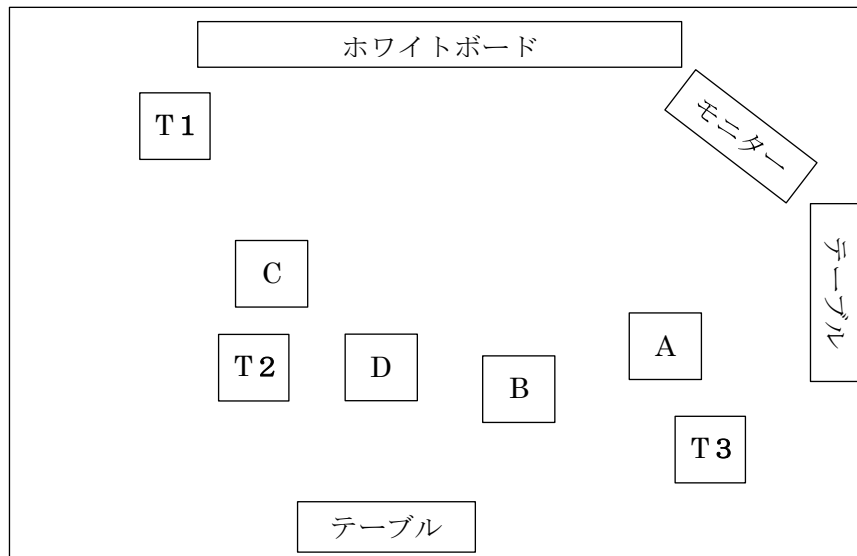
C 女	・体調を整えるために休日は自宅でゆっくり過ごすことが多い。 ・教師の顔を見て気持ちを伝えようとしたり、言葉掛けにタッチや発声で応じたりする。	・表情や発声、タッチで自分の気持ちを伝えながら、教師と一緒にシートをまとめる。 ・友達の発表場面で、顔を上げて見たり、発声したりして気持ちを表出する。 高職業1段階イ(イ)㊥	・様子や表情、仕草などから生徒が伝えたいことを推察し、言葉で選択肢を提示しながら気持ちを聞き取る。 ・生徒の伝えたい気持ちを言葉にして紹介したり、気持ちを友達に聞いたりするなど、やり取りの仲立ちを行う。
D 女	・休日は家族で出掛けることが多い。人との関わりを好み、様々な活動を楽しむことができる。 ・言葉での表現は幼いが、意欲があり、自分の気持ちを伝えようとする。	・活動を選択し、自分で内容を考えて教師に伝えながらシートをまとめる。 ・友達の発表を聞き、自分だったらどうするかを含めた感想を話す。 高職業1段階イ(イ)㊥	・タブレット端末の操作など、自分で判断して教師に支援を依頼できるように見守る。 ・表現方法が分からず、言葉が出てこない際は、例を挙げて発問することで言葉を引き出す。

(3) 学習過程

時間 (分)	学 習 活 動	指導上の留意点 *MSゴシック：自立活動シートより	準備物
9:55 (8)	1 題材の目標とこれまでの学習を振り返る	・これまでの学習内容や、何のための学習かを思い出せるよう、質問形式で生徒とやり取りする。	題字
10:03 (2)	2 本時の活動とめあてを知る	・めあてを意識できるよう、全員で唱和を促す。	モニター タブレット 端末
	めあて やりたいことについて、まとめて「伝えTRY」		
10:05 (5)	3 まとめる内容を決める ・自分の付箋から、本時にまとめる内容を選択する。 ・友達と相談し、役割分担をする。	・本時でまとめる内容を選択できるよう「おでかけ」「地域の施設」など絞り込むためのヒントを伝える。 ・生徒同士で役割を決められるよう、教師は仲立ちを行う。	タブレット 端末 付箋 シート 顔写真
10:10 (20)	4 シートにまとめる ・自分がやりたいこと ・施設でできること ・利用するための方法などについてまとめる ・ロイロノートで提出する	・生徒が自分で考えてまとめられるよう、教師は生徒に合わせた支援を行う。 - A：見守り、依頼があったら助言する。 - B：発問しながら言葉を引き出す。 - C：選択肢を提示して気持ちを聞き取る。 - D：聞き取りとタブレット端末の操作を支援。	
10:30 (10)	5 まとめたことを発表する ・友達の発表を聞く。 ・自分の余暇にも加えたいかを判断し、友達に伝える。	・発表のやり方を確認する。 (相手の方を見る、声の大きさ、聞く態度など) ・発表が終わるごとに、共感したり気付いたりしたことについて確認する。	
10:40 (5)	まとめ 利用できる施設について知り、余暇の選択肢を広げることができたか		
	6 めあての振り返り、まとめ	・余暇の選択肢が増えたことは、卒業後の生活の豊かさにつながることに触れる。	
10:45	7 次時の連絡、挨拶		

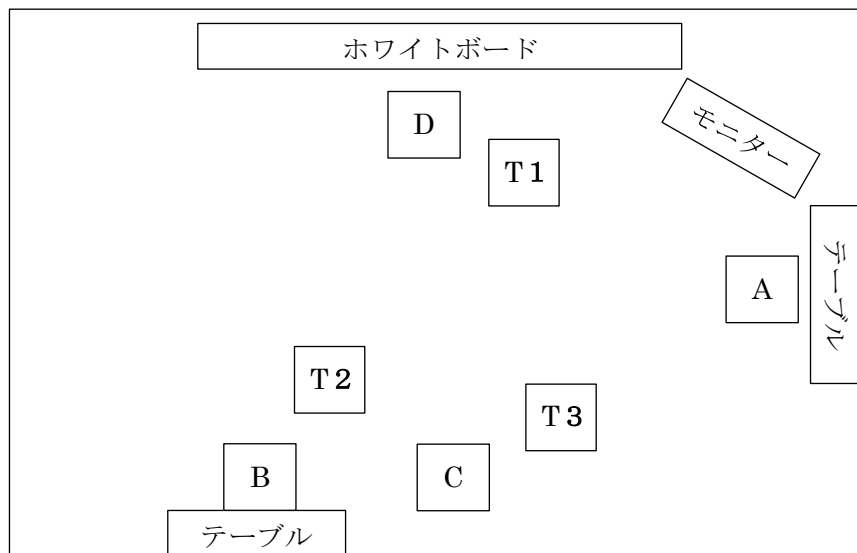
(4) 配置図

活動 1、2、3、5、6



- 全員がホワイトボードとモニターが見える位置に座る。
- 活動 5（発表場面）は、移動せず、そのままの位置で発表するが、必要に応じて向きを変える。

活動 4



(5) 評価の観点

- <生徒> • 個別の目標を基に評価する。
- <教師> • 生徒が主体的に学習に参加し、自分の力でまとめたり表現したりできるよう、生徒の実態に応じた教材教具の準備や教師の発問等の支援ができたか。